

養護教諭養成課程の学外実習に関する研究

— 第3報・副免実習の検討 —

愛知教育大学養護教育教室 野村和雄

1. はじめに

本学養護教諭養成課程の副免実習は4年次6月に実施される、中学校における保健の教育実習である。中学校保健の一級免、高校保健の二級免取得の基礎資格を得ることになるが、これまで1・2名の例外を除いて大多数が実習に出ている。

本課程の前身である3年制の養護教諭養成所時代は、小学校での養護実習(6月期-3週間)、中学校での養護・教育実習(10月期-4週間)により、養護教諭免および保健免取得の基礎資格としていたが、4年制に組織替え以後は大方の課程の実習にならって主免実習(養護実習)4週間、副免実習2週間となっている。この副免実習は、これまでの経緯および保健体育科という教科の中の保健という位置づけであることからくる、幾つかの検討課題をはらんでいる。

本課程の学生にとっては、3年次夏休み期間中の保健所実習(1週間)、秋の主免実習(小学校)、春(2~3月)の臨床実習(県総合保健センター及び県職員病院, 4週間)を終えて、最後の学外実習である。既に本研究報告第12号で臨床実習を、第13号で保健所実習を、それぞれ取り上げ検討した後をうけて、本報では副免実習について検討する。

2. 教科教育との位置関係

本課程では3年次前期に保健科教育CⅠ、後期にCⅡを必修として開講している。昭和63年度入学生から2年次後期~3年次前期に繰り上げるのは他課程と同様であり、また今次教免法改正による教育課程の手直し以後も、必修として課すこととなった。これまで3年次前期CⅠの担当は堀内教官で理論面を中心に、CⅡの担当は筆者で、模擬授業により実際面を中心に、それぞれ教科教育の授業を実施してきた。主免実習である養護実習は、CⅠを終えた段階で小学校に出ることになり、

少数時間の授業実習を経験し、大学に帰ってきてCⅡを学び、臨床実習を経て、副免実習で仕上げる、という形になる。従って筆者にとっては、CⅠおよび養護実習で学生が学んだ事柄を踏まえてCⅡを担当し、その成果を副免実習で問う、という、いわば評価の意味を持つものである。そこで、あわせて教室内の教育実習委員を継続的に担当してきたことから、養護実習終了後、CⅡの最初の講義時間の前後に「養護実習で学んだこと」「子どもの『保健の学力』不足の例」「養護実習で指導を受けた、集団保健指導の際の配慮事項」等についてレポートを課し、要約したものをプリントしたりしてフィードバックし、模擬授業や講義で不足分を補い、また後にみるようなアンケートで中学校での保健授業の実態を把握しつつ、教科教育としての充実を図っている。

3. これまでの経緯及び研究方法

昭和42年に発足した養護教諭養成所の教育課程においては、中学校実習は前述のように4週間であり、うち2週間は養護実習として保健室を中心にした養護教諭としての活動の実習にあて、2週を保健科の教員としての教育実習にあてることを原則的な考えとした。この養護・教育実習は言うまでもなく愛知教育大学の各課程の教育実習とは別個のものであったから、例えば実習協力校への依頼にしても、事務官と実習担当の教官とがペアを組み、公用車により1校ずつ訪問し、実習の説明かたがた、お願いをする、という形をとったのである。「教育実地研究の手引き」に相当するものも「養護実習および養護・教育実習の手引き」であり、実習記録も同様であった。(資料1)

実習校数は昭和44年から13・13・15・16と記録があり、筆者の赴任した昭和48年以後51年まで19・20・22・29校と増加していく。

課程としての教育実習の検討は、昭和51年4月

養護・教育実習記録

(附・実施要項)

昭和 49 年度

実習校

氏名

(固有番号)

愛知教育大学養護教諭養成所

より具体化された。主免実習である養護実習との関連は常に視野に入れねばならないから副免実習のみの検討はありえず、また当該年度の実習の実施のための作業と併行しての検討であった。まず4月末、「養護実習打合せ会」として附属小実習主任および養護教諭、養成所実習担当教官(所属としては養成所教官のまま)および学務主任(事務官)により、小学校での実習を中心に検討を行い、5月22日実習委員会を経て、5月24日養護実習の事前指導が担当教官・学務主任により行われる、といった具合である。これと併行して教室内で教育実地研究について検討し、6月9日、23日の教室会議で教室としての意見をまとめ、7月12日の教育実地研究委員会で大筋認められるに至っている。更に、7月16日「養護・教育実習打合せ会」として附属中実習主任および養護教諭、養成所担当教官および学務主任が打合せし、9月16日養護・教育実習委員会を経て、9月20日事前指導(附属中教官による事前指導を含む)を行った上、当該年度の実習が実施された。次いで、11月10日教室会議で「名・岡各小中の教務主任と連絡をとり、養護教諭を中心に具体的にすすめていくこと」

の了解を得、手引き作成委員会を教室内に設け、案を作成、教育実地研究委員会に提出したのである。このような手順により、本課程の副免実習が、全学の実習計画の中に位置づけられるのであるが、実施においての大きな変更が昭和55年度から行われる。それは資料2のような文書を、本学が主催する教育実習打合せ会において実習協力校に配布し、また教室から実習担当教官が一名その席に参加して説明を加えるようになったことである。周知のように、保健体育科という教科名の中の保健分野は3年間を通して55単位時間あてることとなっているが、その授業の実施は、季節・天候や定期試験とのかかわりで集中的に実施されることが珍しくなく、この6月の時期に授業を組み込むことは実習協力校の年間教育計画を狂わすこともありうるとの判断から、保健の授業実習の位置づけを若干弱めることとしたのである。これは昭和54年12月13日の教育実地研究委員会で承認され、昭和61年度まで踏襲された。例年3～4名の教室内の実習担当委員が行う事前指導においては「中学校を知ることを中心に実習する」「学級運営を中心に」を強調し、また体育理論を含め他教科の観察・参加・実習もありうることから特に体育科教育の関連文献を紹介する程度のことを行うようになった。その後、別紙文書とせず、「教育実地研究の手引き」に加える形で今日に至っている。

このような経緯は、実習協力校の受け取めにかなり大きな幅をもたらし、副免実習としての均一性を保証しえない1つの理由となっていると考えられる。当然、実習協力校それぞれが持つ特色により実習内容がかわってくるのだが、本課程では毎回のように実習の反省点を集約し、改善につなげるために事後アンケートをとり、教官会議で報告、検討している。本報ではこれをもとに現状を分析し、課題を探ることとする。

4. 副免実習の実態

副免実習後のアンケート項目および質問文は少しずつ変えてきているので、該当項目を拾い出し解釈を加えることとする。なお、昭和60年度、61年度、64年度は、資料3に示した調査票によるので、調査結果を○→○→○、で示す。

(愛知教育大学)

養護教諭養成課程学生の副実習(中学校実習)
の実習内容等について

1. 実習内容

- (1) 実習教科は保健体育とする。
- (2) 保健体育中の保健分野の実習とするが、授業実習にこだわることなく、学校全体の保健活動を含むものとする。
 - 観 察……保健体育の授業観察並びに道徳及び特別活動等の観察 4時間
 - 参 加……保健体育の授業参加並びに道徳及び特別活動等の参加 2時間
 - 実 習……保健分野の授業実習の機会があればその実習並びに授業外の保健活動(養護実習)
(道徳あるいは学級活動の指導1時間を含む。)※

2. 提出物

観察及び参加領域の提出物は内容・部数とも、他教科実習生と同様とするが、実習領域の提出物は道徳あるいは学級活動の指導案のほか保健分野の指導案を提出する。

ただし、保健分野の授業実習がない場合は、保健活動記録を提出する。

なお、部数は特に指定しない。

3. 評 価

評価項目中、「学習指導」の項目評価の際には、養護実習の「保健活動」の評価項目を含めて評価することができる。

の困難性から、教科の実習の位置づけに幅をもたせてきたのであるが、この数年、教科の実習中心になってきているといえる。すなわち、昭和56年度調査では「養護実習も行った」のは校数において70%あったが、「教育実習と養護実習」であったとする比率は学生数において53%→46%→35%、と減少してきている。「教科の教育実習」であったとする比率は23%→44%→54%と増加し、一方、「養護実習が主」であったとする比率も6%→8%→11%、と数字の上では増加傾向にあり、2極化しつつも、教科の実習中心になってきている。

④授業の時間数

表1に見るように、保健の授業の実習時間数は、1～2時間、3～4時間、5時間以上がそれぞれ3割前後を占め、顕著な傾向は見られない。多いところでは10時間、12時間、13時間、と授業実習の機会を与えてもらっている実習協力校もある。

道徳の時間は、昭和54年度72%、56年度47%、68%→48%→50%と、ほぼ半数の学生が経験できている。

①1校あたり実習生数

前述のように養護教諭養成所時代の養護・教育実習では実習協力校1校あたり2～4名がふつうであったが、課程となってからの教育実習では、学生定員60名に対して実習校数は附属を含み44校(昭和55年)から57校(昭和60年)に達し、保健の実習生はほぼ1名ずつの配当となっている。

②配属学年

1学年配属が43%→50%→48%、2学年配属が45%→38%→46%、を占め、3学年配属は11%→12%→6%と少ない。

③実習形態

ここでいう実習形態とは、養護実習中心か、教科としての教育実習中心であったか、ということである。既に述べたように、保健の授業実習実施

表1. 保健の授業実習時間数

	61年度	62年度	64年度
1～2時間	30%	26%	34%
3～4時間	38	46	32
5時間以上	30	28	34

⑥指導にあたった教員

中学校実習であれば、実習生の専門の教科の先生が指導、というのが普通であろうが、本課程の副実習の場合には、一定していない。養護教諭養成課程の学生であるから養護教諭が指導、保健体育科の保健の教科実習であるから保健体育の先生が、というそれぞれの考え方と、養成所時代の養護・教育実習のイメージも手伝ってのことであろうと考えられる。昭和54年度の調査では、保健体育の先生が指導、が71%、養護教諭が、は18%、両方が指導、は11%、と保健体育の先生が多かったが、昭和56年度は、それぞれ、54%、22%、24%、であった。養護教諭が指導の中心になるかどうかは、1つに、養護教諭自身が平常、保健を担当しているかどうかに関連していると考えられるが、昭和54年度調査では、41%、56年度調査では24%の学校で、担当しており、これらの学校では、指導教員として養護教諭は必ず加わっていた。

5. 今後の課題

以上概観した数量的なおさえ以外にわれわれの持つ情報は、反省会で口頭で述べられた実習生の感想であり、「学んだこと、印象に残ったこと」「実習前に学んでおけばよかったこと」として自由記述を求めた、その回答内容である。それは実習の質的実態であるとも言えるが、今後の課題を浮かび上がらせてくれる。

①意欲喚起について

まず「この実習の経験から、保健の授業を担当する意欲は増したか」の問いに対し、「できる限り担当したくなった」40%、「なるべく（および絶対）担当したくなくなった」40%、「その他」20%、が昭和54年度調査結果であった。昭和56年度調査では「積極的に担当したい」40%、「ある程度担当してもよい」50%、「なるべくしたくない」10%、と、選択肢の表現の相違はあるが、大きく変化している。これは意欲の低下をみているとは言えないが、面沢ら¹⁾の弘前大の調査によれば、「人間関係について実習後、卒業後の気持ちは積極性がなくなる」といい、それが授業担当面についてありうるのか、否、意欲喚起できる実習をめざしての検討が、課題の質である。

②教科教育のおさえるべき内容について

「実習前に学んでおけばよかったこと」の自由記述で、昭和54年度調査では「教材・教具の使い方」「発問のしかた」に関する記述がそれぞれ3件ずつ、56年度調査では「教科書を事前に入手して教材研究を」が11件、「道徳の授業について」が4件、「中学生について」が3件、等、ある程度集中していたが、昭和61年以後の感想の記述には、内容が分散することもあるが、教科教育の果たすべき内容は少なく、また多様化している傾向が読みとれる。これは、当然、すぐ教科教育で取り上げるべき、そして取り上げることでできる内容を取り上げたから、という単純な図式にはかならない。このような処方的な対応のみでなく、教科教育が、教員養成系大学が、果たすべき役割、おさえるべき内容をなお吟味していくことは、やはり課題の1つとして残る。

③指導にあたるべき教員について

昭和62年度調査での顕著な傾向は、「指導者との連絡がうまく取れなかった」ことに関する記述が9件もみられたことである。これは、前述のように、協力校の本課程副実習の受け止め方が大きく関与しているのであろうが、更に言えば、われわれ養護教育教室の教官に、教育実地研究に対する期待のあいまいさがあるからとも言えよう。実習校に対して、どこまで実習内容を想定して示しうるのか難しい問題ではあるが、極限的には、これが最大の課題と考えられる。

(1989年12月25日受理)

参考文献

- 1) 面沢和子ら、学生の教育実習に対する意識の追跡調査、第31回日本学校保健学会講演集
- 2) 桃崎一政ら、保健体育科教育実習に関する調査研究、その1、第26回日本学校保健学会講演集

教育実習に関する調査

氏名 _____

* 該当する番号に○をつけ、()内には該当事項を記入して下さい。

1. 実習地域

1. 名古屋 2. 尾張 3. 東三河 4. 西三河 5. 附属

2. 実習校名

(_____ 中学校) 生徒数 (_____ 人)

3. 配属学年

(_____ 年)

4. 実習形態

1. 教科の教育実習 2. 養護実習が主 3. 教育実習と養護実習

5. 実習内容

1. 授業実習 (合計 _____ 回)

1) 保健 (_____ 回)

学 年	テーマ
1)	
2)	
3)	
4)	
5)	
6)	

2) 体育 (_____ 回)

3) その他の教科 (_____ 回)

教科名 (_____)

2. 保健指導 (_____ 回)

学 年	テーマ
1)	
2)	
3)	
4)	

3. 道徳 (_____ 回)

4. その他学級担任としての指導 (_____ 回) 1/2時間以上のもの